

市民活動サポートセンター運営協議会 第3回市民参加部会報告書

<開催日時> 令和4年9月8(木) 13:30 ~ 15:00

<開催場所> 市民活動サポートセンター

<出席者>

市民参加部会： 海老田委員・南山委員・依田委員・柴田委員

船橋市社会福祉協議会： 佐々木氏

市民協働課： 原口副主査・矢田係長・菊地主事

<欠席者>： 谷合委員

[配布資料] 次第

資料 1. 第3回市民参加部会作業スケジュール

資料 2. 市民参加部会事業提案1 (谷合委員)

資料 3. 活動支援部会 市民参加グループ 発信力向上 PJ 御提案書(海老田委員)

資料 4. 市民交流事業提案書 (概略) (依田委員)

<議事概要>

1. 提案書の読み合わせ

資料 2~3 をもとに、提案内容の読み合わせを行った。

原口副主査より、提案書に下記7つの項目を入れるようアドバイスを頂き、テンプレートを作成配布した。9月22日の発表では統一様式を使用する。

必要項目：「目的」「効果」「費用」「実施に向けた課題」「内容」「担当」「スケジュール」

効果は数値化できないものもあるため、定性的で構わないとのこと。

スケジュールや実現可否について確認事項が多々あり、現状の提案はファジーなものとなる。

菊地主事より、実現可能性があまりにも低い、目的や効果が不明瞭だと検討対象にならない場合もあるので注意

■イメージチェンジ事業について：資料2

①ユニバーサル空間化→キッズスペースの設置に関しては発信力向上事業で巻き取り。

②常設展示物改修→双方向性コンテンツは発信力向上事業で巻き取り、市民交流事業と連携発展。

③センター内 cafe→代金受け取り等の問題が発生してしまうため、船橋セクションで代用。発信力向上事業で巻き取り。

原口副主査、海老田より、匂いやごみ、金銭授受の問題などから Cafe 化はハードルが高いかもしれない。ふなばしセクションを陳列するあたりが落としどころではないか。

■発信力向上事業について：資料3

①双方向性の実現→窓や壁を利用したインタラクティブアートの構築。メンテナンスとそれにかかるランニングコストを検討。導線保持のためパネル展示については、床を活用するのも一案。

原口副主査より、窓の使用について施設共有スペースと推測されるため、管理組合への確認、都市景観条例の確認が必要とのご意見があった。ご確認頂き、実現可否を判断。

南山委員より、窓が使えない場合の代替策として壁の使用提案があった。提案書に盛り込み、状況にあわせた選択式とする。

菊地主事より、クレーム等が掲示される懸念点があがった。南山委員からの「困りごとリスト」→「やりたいことリスト」への改名提案、ならびに原口副主査より、目安箱といった行政側への要望を別配置するアイデアにより解決に至った。
全事業において挑戦的取組であり、行動しながらの改善となる点をご理解いただいた。

※双方向性について後述の補1を参照

②1歩目の導線策定→船橋セレクションの入り口設置。

原口副主査より、販売は金銭の受け取り問題があるため、パッケージを配置し購入はセブンイレブン等を案内が現実的とのご意見があった。

③快適性の確保→キッズスペースを配置。

キッズスペースについて、矢田係長側で IKEA 様から寄贈頂けないか提案中。実現すればキッズスペースの設置は早期実現が可能となる。スケジュールは返答待ちとなる。

④発信機能の構築→SNS アカウントの開設、SNS コンテストの開催、ロッカーの活用。

菊地主事より、SNS アカウントを活用した発信力向上の提案があり、提案内容への追加を行う。アカウントの開設については行政側への確認を行うとのこと。

原口副主査、菊地主事より一度作成した SNS アカウントは中止が難しいとのご意見があった。効果測定期間を定めた運用とし、測定により継続・中止を判断していく方法をとる。1年では効果が出ないため、3～5年を期間として測定を行う。担当者が決まっていないため、引継ぎに関しては今後の判断となる。

※SNS について後述の補2を参照

■市民交流事業について：資料4

①交流サロンの実施→センターにて交流サロンを実施。市民と団体をつなぐ場所をステージとして構築。

マッチング会、パフォーマンス等、1月の市民活動フェアからの導線を策定する。ステージは収納式とし、外から見える左奥を希望。主要人数、備品、スペース、音の問題が発生する点が課題としてあげられた。

依田委員より、今あるさまざまな動きをフォローするような感じで、より深める場にしたい従来他の場所で行われていた交流会をサポートセンターで開催することで、サポートセンターを目的地にする

海老田より、フェアと連動させて1月～動くのが良さそう

南山委員より、パフォーマンスステージは設置のハードルが高いか？センターでできる内容と他の場所でやる内容と分けても良いかも？

②市民の声実現の場を提供→発信力向上事業にて「やりたいこと」を収集、実現へ向けた場の提供を目標とする。よって②の実施は発信力向上側の構築以降となる。

③外部専門家の講演・ワークショップ→座学だけでなく啓発交流の場を構築する。専門家のみならず南山委員等、市民団体とも連動し、幅広いワークショップならびに①のセミナーへと繋げる。

依田委員より、上記①同様、サポートセンターで開催できるのが理想
コーチング、英語教育、読み聞かせ、防災など思いつく講師を挙げてみたが、他にもあったら教えてほしい

柴田委員より、ナカダイ HD 様シモジマ様等と連携したリユースアクセサリーの作成ならびに、子供向けスマホ等の分解など SDGs に絡んだワークショップの提案があった。こちらは提案書に盛り込み次回発表を行う。

南山委員より、海や里山をフィールドにした市民活動と結びつけてもおもしろいかも

海老田より、従来つながりがなかった分野とつながることで市民活動により奥行きがでたら素敵

原口副主査より、市内事業者と連携を行うのであれば、「商工会議所」「協議会」等の切り崩しが必要であるとのことご意見を頂き、柴田委員、依田委員の判断に応じて、実施する場合は提案書スケジュールに盛り込む方向となった。

矢田係長よりプレゼン講座打ち合わせ時にバス利用が難しいとのことご意見があったため、現状ではセンターにお呼びする方向性となっている。

2. 今後の取組について

- ・22日までに各自提案書を作成。
- ・確認事項等が多々発生するため現状では仮案とし、提案が出揃う次回以降で取捨選択しながら実現へ向けての取組を行う。→**最初から完璧を求めない、できることから手を付けていく**

3. 次回の議題

- ①提案書を読み合わせ、各事業の実現可能性ならびに選択と集中に向けた取捨選択。
→リソースが足りない事項等を削減し、選択と集中による最適化を図る。
- ②各事業と連動した実施スケジュールの調整。
→構築後でなければ実施できない事業、フェア以降が適した事業など、タイミングを調整。また協働課より STOP がかかる内容等を確認する。挑戦的な取り組みとなる本事業では、ファジーなスケジュール構成とし、連動による厚みをもたせていく。

補1 :

<市民の声の吸い上げについて>

- ・批判的なコメントが多く集まってしまった場合、どうフィードバックするのか？(菊地主事)
→困りごとを書いてください、ではなく「やってみたいことを書いてみよう！」「あったらいいなこんなこと」のようなポジティブなメッセージとして発信する(南山委員)
- アイデアの海(仮称)の横に市長への声 BOX を設置するなどして、すみ分けを図る(原口副主査)
- あまりにも公序良俗に反する内容は撤去するなど、ある程度の線引きが必要。そのあたりはサポートセンター職員にお願いすることになるか？

補2 :

<SNS について>

- ・各事業を効果的に周知していくために SNS アカウントの開設を検討してほしい(菊地主事)
- twitter、instagram、facebook の3つでやってみることに
- 期限を決めて効果測定し、必要なら取捨選択
- 次期の委員に楽に引き継げるようなオペレーションに
- 発信内容はある程度制約がある？できるだけ堅苦しくなりすぎないコンテンツにしたい
- SNS を有効活用することで市民活動に関する情報の集約と発信に効果大(期待)

次回は 9/22(木) 13:30～全体会@市役所 9階第1会議室。

それまでに各担当の事業提案書を仕上げましょう！

<次回開催予定> 令和4年10月13日(木) 13:30～

場所：市民活動サポートセンター(予定)

部会報告作成担当者：

海老田委員

次回担当：谷合委員